

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法 科目コード：130030 成人看護方法論演習Ⅰ Practice:Adult NursingⅠ					
担当教員	村井嘉子、紺家千津子、南堀直之、大西陽子、松本智里、今方裕子、瀧澤理穂				
実務経験					
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	成人期、周術期看護、日常生活への影響とアセスメント、情報の統合と看護問題の抽出、看護計画立案・実施・評価、看護サマリー				
学習目的・目標	目的：対象の健康レベルに即した患者理解のために必要な知識を修得する。また、看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセス（判断能力、応用能力、問題解決能力）を養い、基本的な援助を修得する。 目標： １．周術期・侵襲的検査や処置を受ける事例を通してアセスメントし看護問題を抽出できる。 ２．看護計画を立案し、具体的な援助技術、援助方法を実践し修得できる。 ３．患者への援助を提供する際に必要となる倫理的判断に対して、看護の立場から自分の考えを整理できる。				
授業計画・内容					
回	内容			担当	
1-2	◆ガイダンス…本授業の進め方、評価について 全身麻酔で手術を受ける人への看護 １．術前看護（１） ①入院前～退院支援における周術期のチームアプローチ ②術前の全身状態を整えること			村井、紺家 南堀、大西	
3-4	２．術前看護（２）…事例紹介 ①手術前日および手術当日の準備と看護 ②術前アセスメント ③手術室への搬送 ④術後に備えたベッド作成、病室の環境整備 【演習①】術前処置（臍処置、腸管処置、呼吸リハビリテーション等）			村井、紺家 南堀、大西、松本、今方、瀧澤	
5	３．術中看護 ①手術室看護師の役割 ②手術開始から終了までの流れ ③麻酔記録、看護記録の見方			村井、紺家 南堀、大西	
6-7	４．術後看護（１） 術直後の患者の全体像 【演習②】患者の全身状態の観察、ドレーン管理、創傷管理			村井、紺家 南堀、大西、松本、今方、瀧澤	
8-9	５．術後看護（２） ①術後1病日のアセスメント ②術後合併症（呼吸器合併症／循環器合併症／創感染等） ③情報の統合（病態の関連と看護問題の抽出）			村井、紺家 南堀、大西	
10-11	６．術後看護（３） 情報の統合：事例および疾患別の病態と療養生活の関連性			村井、紺家 南堀、大西、松本、今方、瀧澤	
12-13	７．術後看護（４） ①看護計画の立案 ②早期離床の援助 【演習③】早期離床（術後初回離床）の援助			村井、紺家 南堀、大西、松本、今方、瀧澤	
14-15	８．術後看護（５） ①退院：社会復帰に向けた看護 ②看護サマリー ９．実技試験			村井、紺家 南堀、大西	
教科書	系統看護学講座：別巻1 臨床外科看護総論、医学書院、別巻2 臨床外科看護各論、医学書院 講義から実習へ 周手術期看護1～5、医歯薬出版				
参考図書等	疾病・障害論で使用したテキスト 系統看護学講座：成人看護学総論、医学書院、専門分野Ⅱ 成人看護学2～11				
評価指標	レポート課題25%、筆記試験50%、実技試験25% 授業・グループワークへの参加姿勢、セッションごとに提示される課題のレポート、および筆記試験等の評価点により、総合的に評価する。				
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、解剖生理学／演習、代謝と栄養、疾病・障害論Ⅰ・ⅡA・ⅡB・ⅡC、フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ、臨床薬理学 など				
教員から学生へのメッセージ	・患者は麻酔と手術を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような患者は心身共に支えられ、元の生活に戻ることができるような援助を必要としています。疾病・障害論等で学んだことを想起し				

ながら授業・演習に臨み、後期の実習につなげましょう。
・授業内容は変更になることもあるので、授業進行の詳細は第1回の授業時に配布します。